

栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

- 平成16年度教育課程実施状況調査の結果を踏まえて -

【中学校・国語科】

平成17年5月

栃木県総合教育センター

本センターでは、平成16年7月、県内の公立小・中学校（小144校、中114校）を対象として、教育課程実施状況調査を実施しました。調査にあたっては、国が平成15年度に実施した同調査の調査票（ペーパーテスト及び質問紙）を複製使用し、小学校では第6学年を対象に第5学年段階の内容の調査を、中学校では第3学年を対象に第2学年段階の内容の調査を行いました。

今年度、調査結果及び調査結果を踏まえた学習指導の充実・改善を図るためのポイントを教科ごとにまとめ、「栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン」シリーズとして、3回に分けて発行する予定です。各学校でご活用いただき、「確かな学力」を育むための学習指導の充実・改善にお役立てください。

1 国語科の調査結果

○ 調査結果の主な特色

< ペーパーテスト調査 >

- 本県の通過率の平均は、全国の通過率の平均とほぼ同程度であると考えられる。
- 領域・事項ごとの通過率の平均は、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「言語事項」のいずれについても、全国の通過率の平均とほぼ同程度であると考えられる。
- ただし、「言語事項」については、本県の通過率の平均が全国の通過率の平均を5%以上、下回っている問題が4問ある。また、全国の通過率の平均との差を「2%以上」にまで絞ってみると、「言語事項」には、2%以上、下回っている問題が48問中15問ある。
- また、「読むこと」の通過率が6割に満たなかった問題に着目すると、「文章全体の要旨をとらえる力」や「文章の構成や展開をとらえる力」、「文章の表現を引用して適切に記述する力」などについて、全国の傾向と同様の課題がみられる。
- 出題方式ごとの通過率の平均では、記述式、準記述式、選択式のいずれについても、本県の通過率の平均は、全国の通過率の平均とほぼ同程度であると考えられる。ただし、記述式の問題をみると、「25字以内」で記述する問題の通過率は6割を超えているが、「50字以内」で記述する問題になると、通過率は5割に満たない。また、「80字以上100字以内」で記述する問題では、無解答率が3割を超えている。

< 質問紙調査 >

- 本県及び全国のいずれの結果においても、「国語の勉強は大切だ」について、「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒は8割を超えている。一方、「国語の勉強が好きだ」については、いずれも5割に満たない。
- 「国語の授業がどの程度分かりますか」について、「よく分かる」あるいは「だいたい分かる」と回答した生徒は、本県では56.6%、全国では54.1%と、ほぼ同程度である。

○ ペーパーテスト調査の結果から

通過率の平均の比較

本県の通過率	全国の通過率	本県と全国との差	設定通過率の平均	本県と設定通過率との差
75.2%	75.7%	-0.5%	69.9%	5.3%

* 通過率は、問題ごとの正答、準正答の合計を解答者数の合計で割った数値。

* 通過率の平均は、3種類の問題冊子の各問いの通過率の合計を、総問題数(85問)で割った数値。

* 設定通過率は、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけ、学習指導要領作成時に想定された学習活動が行われた場合、個々の問題ごとに正答、準正答の割合の合計である通過率がどの程度になるかを示した数値。

領域・事項ごとの通過率の平均の比較

通過率 領域・事項	本県の通過率	全国の通過率	本県と全国との差	設定通過率	本県と設定通過率との差
話すこと・聞くこと	80.9%	80.5%	0.4%	69.4%	11.5%
書くこと	55.3%	56.3%	-1.0%	72.5%	-17.2%
読むこと	66.3%	66.0%	0.3%	69.2%	-2.9%
言語事項	80.6%	81.5%	-0.9%	70.1%	10.5%

問題数 領域・事項	問題数	本県の通過率が全国の通過率を5%(2%)以上、上回っている問題数	本県の通過率が全国の通過率を5%(2%)以上、下回っている問題数
話すこと・聞くこと	8	0 (0)	0 (0)
書くこと	4	0 (1)	0 (2)
読むこと	25	1 (8)	2 (3)
言語事項	48	0 (3)	4 (15)

前回と同一問題（22問）の通過率の平均の比較

本県の通過率	全国の通過率	前回の全国の通過率	設定通過率
78.3%	78.5%	75.6%	71.6%

問題数 領域・事項	問題数	本県の通過率が全国の通過率を5%(2%)以上、上回っている問題数	本県の通過率が全国の通過率を5%(2%)以上、下回っている問題数
話すこと・聞くこと	3	0 (2)	0 (0)
書くこと	1	1 (1)	0 (0)
読むこと	11	3 (3)	2 (2)
言語事項	7	1 (3)	1 (3)

出題方式ごとの通過率の平均の比較

通過率 出題方式	本県の通過率	全国の通過率	本県と全国との差	設定通過率	本県と設定通過率との差
記述式(15問)	61.8%	62.4%	-0.6%	68.7%	-6.9%
準記述式(31問)	79.3%	80.3%	-1.0%	70.2%	9.1%
選択式(39問)	77.1%	77.0%	0.1%	70.1%	7.0%

・準記述式とは、漢字の読み書きと、表現を文中からそのまま抜き出して解答する問題のこと。広義には記述式に含むが、国立政策研究所の報告書では記述式に含めていないため、ここでは区別して示した。

(問題の原文は縦書き。以下同じ。)

- * 領域・事項：「読むこと」
- * 学習指導要領の内容：Ｃ（１）イ
- * 出題のねらい：論理的な構成や展開を的確にとらえる。

正答	3
----	---

* 領域・事項：「読むこと」
* 学習指導要領の内容：Ｃ（１）イ
* 出題のねらい：文章の展開をとらえて内容を理解する。

本県の通過率が全国の通過率を下回った問題（主なもの）

（問題の原文は縦書き。以下同じ。）

本県の通過率	56.7%	全国の通過率	65.2%	差	8.5%
--------	-------	--------	-------	---	------

* 領域・事項：「読むこと」

* 学習指導要領の内容：Ｃ（１）ウ

* 出題のねらい：表現の仕方や文章の特徴に注意して読む。

次の は、それぞれ文章中の~~~~線アイウの歴史的仮名遣いを現代仮名遣いにしたものです。正しいものには○を、誤っているものには×を、それぞれの□の中に書きなさい。

歴史的仮名遣い——現代仮名遣い

ァなどかうは——などこうは

ィはかなきもの——わかなきもの

ウうつろひ——うつろい

☐
☐
☐

正答 に「○」、 に「×」、 に「○」を書いているもの。

* 領域・事項：「言語事項」

* 学習指導要領の内容：言（２）ア 言（２）イ

* 出題のねらい：文脈に即して漢字を正しく読む。文脈に即して漢字を正しく書く。

通し 番号	問題	本県の通過率	全国の通過率	差
B - 17	道路を <u>拡張</u> する。	74.1%	82.0%	-7.9%
B - 13	友達との約束を <u>ヤブ</u> ってしまった。	57.9%	64.1%	-6.2%
C - 15	<u>ジシャク</u> を使って方位を調べる。	78.6%	83.8%	-5.2%
B - 19	目標に向かって <u>突き</u> 進む。	93.4%	98.4%	-5.0%

正答 B-17 かくちょう B-13 破（って） C-15 磁石 B-19 つ（き）

前回との同一問題のうち、本県の通過率が前回の全国の通過率を上回った問題（上位２題）

本県の通過率	65.0%	全国の通過率	61.2%	前回の全国の通過率	54.8%
--------	-------	--------	-------	-----------	-------

* 領域・事項：「読むこと」

* 学習指導要領の内容：Ｃ（１）オ

* 出題のねらい：文章に含まれているものの見方や考え方を理解し、自分の見方や考え方を広げる。

この文章を読んで、あなた自身の情報探索能力を高めるために、これからの生活でどのようなことを心がけようと思いますか。心がけようと思うことと、なぜそれを心がけようと思うのか、その理由を書きなさい。

（正答）次の条件を満たしているもの。

（条件） 自分が心がけようと思うことを書いている。

なぜそれを心がけようと思ったか、その理由にあたる内容が文中に含まれている。

本県の通過率	90.3%	全国の通過率	91.2%	前回の全国の通過率	81.7%
--------	-------	--------	-------	-----------	-------

* 領域・事項：「読むこと」

* 学習指導要領の内容：Ｃ（国語への関心・意欲・態度）

* 出題のねらい：自分の生活を振り返り、必要なことを表現しようとする。

あなたは、知りたいことについての情報を、どのような方法で入手しますか。二種類以上の方法を書きなさい。

• • •

（正答）情報を調べる内容を二つ以上書いているもの。

○ 生徒質問紙調査(意識調査)の結果から

* 数値は、質問に対して回答した生徒の割合を表す。

* 本県の結果は、平成 16 年 7 月に 3 年生で実施したもの。

全国の結果は、平成 16 年 2 月に 2 年生で実施したもの。

国語の勉強に対する意識		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わ ない	分から ない
国語の勉強が好きだ。	本県	14.2%	33.3%	27.9%	18.2%	6.2%
	全国	14.2%	31.8%	28.4%	19.6%	5.6%
国語の勉強は大切だ。	本県	44.4%	40.7%	7.9%	3.7%	3.0%
	全国	43.0%	40.6%	8.3%	4.4%	3.4%
ふだんの生活や社会に出て役立 つよう、国語を勉強したい。	本県	27.0%	38.6%	17.3%	8.3%	8.3%
	全国	26.0%	37.1%	18.2%	9.3%	8.9%

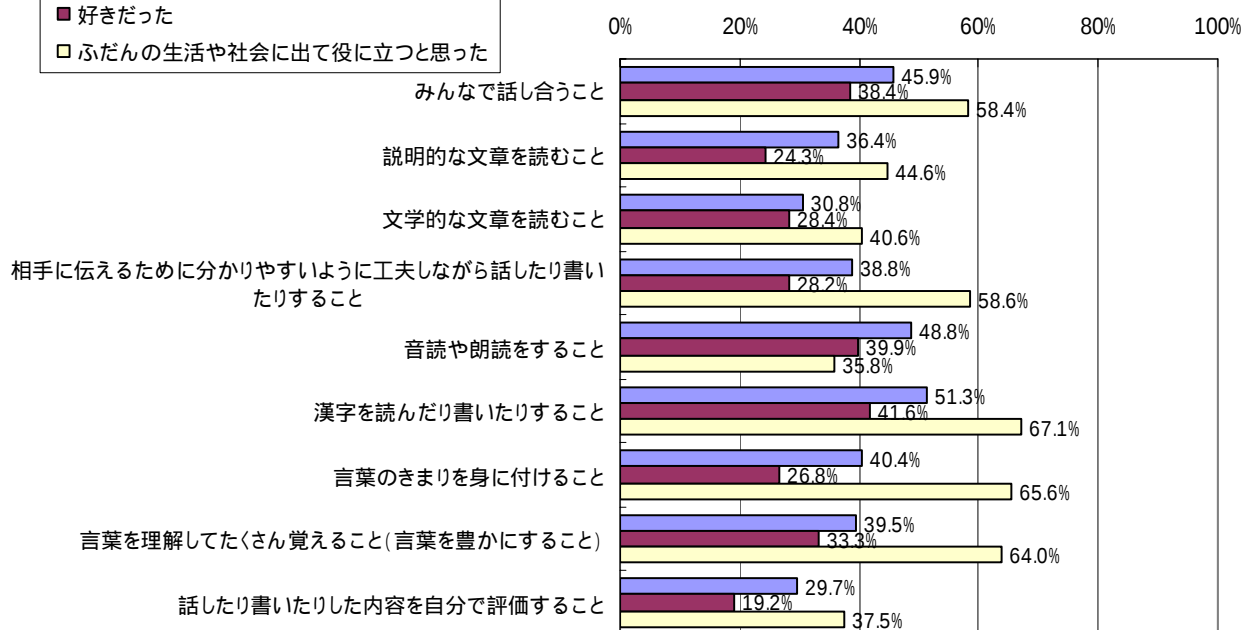
国語の勉強の理解度		よく分かる	だいたい 分かる	分かること と分からない ことが半 分くらいず つある	分からない ことが多い	ほとんど 分からない
国語の授業がどの程度 分かりますか。	本県	9.4%	47.2%	32.1%	8.1%	1.7%
	全国	9.6%	44.5%	31.7%	10.0%	2.6%

関心・意欲・態度		楽しい (そうしてい る)	どちらかといえ ば楽しい (そうしている)	どちらかといえ ば楽しくない (そうしていな い)	楽しくない (そうしていな い)
国語の時間に、自分の考えや 調べたことを発表することは楽 しいですか。	本県	7.3%	27.4%	36.6%	28.5%
	全国	8.3%	25.7%	35.5%	30.0%
自分の思いや考えを文章に書 こうと努力していますか。	本県	22.0%	40.7%	21.9%	15.0%
	全国	21.4%	37.3%	22.9%	17.9%

国語科で学習した内容についての意識

- よく分かった
- 好きだった
- ふだんの生活や社会に出て役に立つと思った

勉強した内容についてどのように感じたか



(生徒質問紙調査の結果より)

○ 生徒質問紙調査とペーパーテストの結果との関連

国語の勉強が、「大切だ」、「役に立つ」などと思っている生徒は、ペーパーテスト調査の正答率が高いという結果が出ています。

* 数値は、ペーパーテスト(国語科)の平均正答率(%)を表す。

質問 \ 選択肢	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
国語の勉強が好きだ。	62.0	62.2	62.9	62.5
国語の勉強は大切だ。	65.1	61.7	55.5	56.4
国語を勉強すれば、私のふだんの生活や社会に出て役立つ。	65.4	63.0	57.8	54.3
国語を勉強すれば、私は、お互いの思いや考えをうまく伝えることができるようになる。	64.4	62.4	61.0	58.9

2 国語科の学習指導の改善プラン

ペーパーテスト調査結果からみえた成果と課題 - 言語事項

- 漢字の「読み」の通過率は、全15問のうち、13問が9割を超えている。また、中学校で学習する漢字についてみると、該当の11問すべての通過率が9割を超えている。
- ▼ 「読み」のうち、中学校で学習する新出音訓「著しい」の通過率は53.4%という状況である。
- ▼ 漢字の「書き」の通過率は、全15問のうち、8問が7割に満たない。特に、教育漢字の「訓」の通過率が低く、「幹」が40.4%、「傷」が56.1%、「破る」が57.9%という状況である。
- 語句・語彙に関する問題は、全18問とも、短文の意味に合う語句を選ぶ問題として出題された。そのうち、14問の通過率が8割を超えた。
- ▼ 語句・語彙に関する問題で通過率が低いものは、「会心（の作）」を正答として選ぶ問題が41.6%、「綿密に」が48.0%、「音を上げる」が56.4%という状況である。

上記のうち、今回は、漢字の「読み書き」について改善プランを示しますので、参考にしてください。

漢字の読み書きの通過率の状況

問題冊子 A

書きの出題	県	全国	初出学年	読みの出題	県	全国	初出学年
エイセイ（衛星）	62.2%	62.1%	衛（小5）星（小2）	納める	94.2%	93.4%	納（小6）
サンセイ（賛成）する	70.5%	69.3%	賛（小5）成（小4）	貝殻	95.2%	94.6%	貝（小1）殻（中学）
ミキ（幹）	40.4%	38.1%	幹（小5）	派遣	91.5%	90.2%	派（小6）遣（中学）
マド（窓）	81.6%	81.0%	窓（小6）	著しい	53.4%	55.4%	著（小6）
シヤ（視野）	57.7%	60.5%	視（小6）野（小2）	飾る	93.9%	95.0%	飾（中学）

問題冊子 B

書きの出題	県	全国	初出学年	読みの出題	県	全国	初出学年
キソク（規則）	61.9%	60.6%	規（小5）則（小5）	拡張	74.1%	82.0%	拡（小6）張（小5）
ヤブ（破）る	57.9%	64.1%	破（小5）	顕微鏡	92.9%	91.0%	顕（中学）微（中学） 鏡（小4）
コウサイ（交際）	60.4%	59.9%	交（小2）際（小5）	突き進む	93.4%	98.4%	突（中学）
キズ（傷）	56.1%	57.9%	傷（小6）	矛盾	91.1%	94.9%	矛（中学）盾（中学）
ショゾク（所属）	50.6%	53.2%	所（小3）属（小5）	舞う	94.2%	98.7%	舞（中学）

問題冊子 C

書きの出題	県	全国	初出学年	読みの出題	県	全国	初出学年
ゼイキン（税金）	84.8%	82.4%	税（小5）金（小1）	紹介	98.3%	98.5%	紹（中学）介（中学）
エイガ（映画）	90.7%	90.3%	映（小6）画（小2）	壊れる	97.6%	98.1%	壊（中学）
ジシャク（磁石）	78.6%	83.8%	磁（小6）石（小1）	頼りにする	95.6%	96.7%	頼（中学）
タマゴ（卵）	89.4%	89.0%	卵（小6）	批判	92.5%	94.5%	批（小6）判（小5）
ヤサ（優）しさ	79.1%	79.0%	優（小6）	環境	98.3%	98.4%	環（中学）境（小5）

小学校で学習する漢字（教育漢字）の定着を確かめましょう

国語科の教師は、生徒たちのために様々な工夫をして、漢字の読み書きの指導を行っています。その努力は調査の結果にもあらわれ、中学校で初出になる漢字は、「読み」の15問中11問に含まれていましたが、そのすべてが通過率9割を超えました。

一方、漢字の「書き」の15問すべてに、小学校で学習した漢字（教育漢字）が含まれて出題されましたが、通過率が8割を超えたのは、「窓」、「税金」、「映画」、「卵」の4問だけでした。また、教育漢字を含む問題の通過率が7割に満たないものは、「書き」で8問、「読み」で1問ありました。なかでも、「幹」が40.4%、「傷」が56.1%、「破る」が57.9%、「読み」では「著しい」が53.4%という状況でした。

これらのことから、教育漢字の読み書きについて、とりわけ、「訓」の読み書きの指導については課題があると考えられます。また、「音」の書きのうち、「所属」が50.6%、「視野」が57.7%、「交際」が60.4%、「規則」が61.9%でした。このように平易な言葉でも、抽象的な意味をもつ語句の場合、その漢字の書きの通過率は必ずしもよくなかったのです。これは、生徒がそれらの漢字を繰り返し使用する機会が不足しているためであると考えられます。

多くの教科書では、単元や教材ごとに「小学校6年で学習した漢字」を意図的に明示していることから分かるように、漢字の書きの定着には繰り返し学習する機会が必要です。そこで、例えば次に示すような方法により、一層の工夫を図ることが望まれます。

単元ごと・毎時ごとの学習機会に

- 単元のはじめや終わりに、「新出漢字」だけでなく「小学校6年で学習した漢字」にも目を通し、全員や個人で音読したり、視写したり、熟語づくりをしたりするなどして、習熟を図ることが望まれます。できれば毎時ごとに、1、2分程度の「漢字に慣れる」時間を設け、音読や視写などを一斉にすることで、みんなそれぞれに頑張ろうとする雰囲気生まれてくるのではないのでしょうか。

1年生の1学期（前期）に

- 中学校1年生の1学期（前期）に、5、6年生に初出する漢字を中心に、教育漢字の定着を確認するテストを行い、どの漢字がまだ身に付いていないのか生徒に自覚させ、以後の自主学習のめやすや計画を作らせると効果的です。
- 教育漢字を使った「熟語表」を配付するなどして、家庭学習に取り組みせましょう。期間や熟語の数などを区切って、家庭学習の結果について、確認テストを行うと一層効果的です。

学習の折々会に

- ちょっとした時間を見つけて、漢字を使って熟語をつくりましょう。黒板などを利用して全員で楽しく行うように工夫すると効果的です。
- 定着が低い教育漢字を使った熟語を板書したりプリントで示したりするなどして、全員で音読すると効果的です。
- 指定した漢字や熟語を使って、短文づくりをすると効果的です。

コラム教材の活用

教科書には、いわゆるコラム教材と呼ばれる、主に言語事項に関する1ページ程度の短い教材があります。それらの教材には、「新出漢字」がまとまって示されていることがあります。漢字の数や量が多い割には、学習にあてられる時間は短いため、それらの漢字の定着率は必ずしも高いとはいえません。

そこで、新しい単元や教材に学習が進んだ後でも、適宜、コラム教材のページにもどり、次のような点に留意して、繰り返し学習することが望まれます。

- 漢字や熟語を音読し、「読める」ようになった漢字をチェックしましょう。
- 漢字を使った熟語を教師が出題しノートに書かせませよう。

漢字の学習は、単調になりがちな面もありますので、時期を区切ったりして方法を変えてみることも一案です。また、達成テストなどを定期的に行うことによって、努力の結果が数字でも実感できます。漢字の学習は、努力の結果が比較的早くあらわれますので、国語の学習が好きになったり、自信を得たりするきっかけとなることも少なくありません。また、先生が様々な工夫をして、生徒のやる気を引き出そうとすることで、「みんなで頑張ろう」とする雰囲気教室に生まれてくると考えられます。今までの取組を点検して、生徒たちが一層楽しく取り組み、成果のあがる方法をぜひ工夫してみてください。

中学校で学習する「教育漢字の新出音訓」に注意しましょう

初出のときは → 中学校では

小1 ^{ぶん}文 → ^{ふみづき}文月

^{はは}母 → ^{ぼいん}母音

^{みみ}耳 → ^{じびか}耳鼻科

小2 ^{もん}門 → ^{かどで}門出

^{なつ}夏 → ^{げし}夏至

^{えん}園 → ^{はなぞの}花園

今回、漢字の読みは、全15問中13問の正答率が9割を超え、全15問の平均で90.4%と高い結果となりました。その中で、「著しい」の読みだけが、53.4%という低い結果にとどまりました。「著」は小学校6年生で初出になる漢字ですが、「イチジル(しい)」「アラワ(す)」という訓については中学校で学習するように指定されています。

このように、小学校で学習する漢字(教育漢字)には、「中学校で学習する音訓」の指定があるものが少なくありません。

例えば左の表の漢字は、初出は小学校の低学年ですが、振り仮名の音訓は中学校で「新出音訓」として学習することになっています。

それらの新出音訓は、教科書の下欄や巻末に示されていますが、生徒の自主学習だけに任せていると、定着は難しいと思われます。やはり、指導の際に意図的に取り上げるようにすることで身に付いていくと考えられます。

ペーパーテスト調査結果からみえた成果と課題 - 読むこと -

- 「人物の心情」をとらえる力をみる問題や、「自分の思いや考え」を述べる力をみる問題の中には、通過率が9割を超えているものがある。
- ▼ 「文章全体の要旨」や「文章の構成や展開」をとらえる力をみる問題や、「文章の表現を引用」して理由などを適切に記述する力をみる問題については、通過率が6割に満たないものが目立つ。
- ▼ 「25字以内」で記述する問題の通過率は6割を超えているが、「50字以内」で記述する問題になると、通過率は5割に満たない。また、「80字以上100字以内」で記述する問題では、無解答率が3割を超えている。

上記のうち、今回は、「文章全体の要旨」や「文章構成や展開」をとらえる力を育てることに関しての改善プランを示しますので、参考にしてください。

文章の要旨を把握する方法を工夫しましょう

「文章全体の要旨」や「文章の構成や展開」をとらえる力をみる問題には、どのようなタイプの問題があるのでしょうか。例えば、次のようなタイプの設問についてみると、通過率が7割を超えた設問がある一方で、6割に満たなかったものが目立ちました。分析の結果、通過率の低い設問では、「正答に近い誤答」が多く、生徒がケアレスミスを起こしやすい要因があったようです。

【通過率が低かった問題のタイプ】

例 1

○○について述べられているのはどの段落からどの段落までですか。次の1から5のうち、最も適切なものを一つ選び、その番号を□の中に書きなさい。

1 □~□ 2 □~□ 3 □~□ 4 □~□ 5 □~□

例 2

筆者が本文で述べている内容と合っているものは次の1から4のうちどれですか。最も適切なものを一つ選び、その番号を□の中に書きなさい。（選択肢は省略）

ケアレスミスを起こしやすいのは

現在の教科書に目を向けると、説明的な文章をはじめとして、いわゆる「読み教材」が以前の教科書に比べて減っています。例えば、県内で採択されている教科書2社について1年生の説明文教材の数を比べてみると、A社では年間で3教材、B社では年間で5教材とわずかです。

このような状況からしても、「文章全体の要旨」や「文章の構成や展開」をとらえる学習

の機会や、それらに関するテスト問題の解き方などに慣れる機会が限られているため、実際のテスト問題に取り組んだときにケアレスミスを起こしがちになると考えられます。

そこで、次のようなプランにより、普段の授業において、問題を解く機会を増やすなどして、解き方のトレーニングをしてはどうでしょうか。

1 問題を解く機会を増やしましょう

副教材の中から問題を選んで

ワークブックなどの副教材から、「文章全体の要旨」や「文章の構成や展開」をとらえるうえで良質の設問を選び、授業の中で取り上げることは、たいへん効果的です。取り上げるにあたっては、教科書の教材文に関する問題はもとより、教科書には掲載されていない文章を用いた問題も選んで加えるようにすると、一層効果的でしょう。

なお、家庭学習の課題とする場合は、学習の結果を授業で確認するようにすることが大切です。特に、解き方が分からない生徒にとっては、教師による分かりやすい解説が不可欠です。

ストックしてあるデジタルデータから選んで

教科書会社が製作した教材文のCDや、定期テストのデジタルデータなどをはじめとして、教材指導に関するデジタルデータが個人や学校に、たくさんストックされていることと思います。そうしたデータを利用して、「文章全体の要旨」や「文章構成や展開」をとらえる学習をぜひ行いたいものです。

最も簡単な方法としては、テスト問題を利用することが考えられます。一度出題した問題を必要に応じて家庭学習のワークシートに取り入れたり、授業において繰り返し取り上げたりすることも効果的なのではないのでしょうか。

また、教科書には掲載されなくなった教材文やそのテスト問題のデジタルデータも、有効に利用することができます。例えば、教科書教材を主教材として学習したうえで、発展的な学習または補足的な学習の教材として活用するのです。教科書教材とは別の教材で、「文章全体の要旨」や「文章の構成や展開」をとらえる力が身に付いたかどうか試すことができます。

また、教材文だけを印刷したうえで、形式段落ごとに短冊にするなどして生徒に配付し、「意味が通じるように並べ替えてみよう」という学習に利用することもできます。これは、いたってシンプルな方法ですが、文章の順序を考えることは論理的に思考することにほかならず、特に、「文章の構成や展開」をとらえる力を身に付けるうえで、たいへん効果的だと考えられます。

2 生徒にも「問題」を作らせてみましょう

説明文教材の代表的な指導法として、「文章全体を意味段落ごとに分ける」、「意味段落ごとに小見出しを付ける」、「キーワードを探して意味段落ごとの要点をまとめる」などがよく知られています。しかし、「意味段落ごとに分ける」、「小見出しを付ける」といった作業に時間がとられ、「どうしてそうなるのか」について、論理的に考える時間がなかなか確保しにくいという現実もあります。その結果、理解が深まらないままに学習が終了すると、同じ内容についてテストで出題されても、解答に導く手だてが分からず、直感で答えざるを得ないということになってしまいます。

そこで、生徒自身が「問題」をつくる学習を行うことにより、「どうして、なぜ」の部分を考える方法を取り入れてはどうでしょう。問題をつくることを通して、生徒が文章に主体的に取り組み、段落の役割や文と文との接続関係などを考えながら、論理的にそれらの関係を推測する力を身に付けていくことになります。

その際、まずは、教師が問題の実例を示し、それを参考にして作成させるようにすると効果的です。次に示すのは、「暴れ川を治める」(東京書籍1年・4時間計画)での教師の例示と、教師の例示及び説明を参考にして生徒がつくった問題例です。

教師の例示

*理由を考える問題をつくってみよう

- ・「○○について、第○段落では『…』と述べられています。なぜ、『…』といえるのか、その理由は何でしょう。」
- ・「第○段落で、筆者は『…』と述べています。その理由が述べられているのはどの段落ですか。また、筆者はその理由はどのように述べていますか。」

*どこに(どこからどこまで)書かれているのかを考える問題をつくってみよう

- ・「○○について書いてあるのは、どの段落ですか。」
- ・「○○について書いてあるのは、どの段落からどの段落までですか。」

*段落と段落の関連を考える問題をつくってみよう

- ・「第○段落で問題提起されたことの結論はどの段落に示されていますか。」

*文章の構成を考える問題をつくってみよう

- ・「この文章は『…』『…』『…』の三つに分けられます。そのうち、
について書かれているのは、第1段落からどの段落まででしょう。」
- ・「『では』、『さて』、『ところで』などの接続語に注意して、この文章を、意味のまとまりごとに三つに分けてみましょう。また、どうしてそのように分けたのか、理由を説明しましょう。」

生徒がつくった「暴れ川を治める」の問題例

- ・ 「これは川ではない、滝だ。」(第 段落)と外国人が驚いて言ったのはなぜですか。
- ・ 第 段落の「それは、どんな方法だったのでしょうか。」の「方法」について、武田信玄と加藤清正の例は、それぞれ、どこからどこまでに書かれていますか。
- ・ 筆者が武田信玄と加藤清正を例にしたのはなぜだと考えられますか。第 段落に、「堤のそばには、竹やぶや森林が組み合わせて育てられました。」とありますが、その理由は何ですか。また、どの段落で述べられていますか。
- ・ 筆者は、最後の段落で、「このように、昔の人たちはどこまでも、水を大地に返すことに心を砕いたのです。」と述べています。この点について、現代のことに、筆者がふれている段落がありました。「このように」に注意して、どの段落で、どのようなことを述べていたか調べましょう。

教師が助言や補足を適切に行うとともに、生徒が問題を解き、自分たちで解説し合ったりすることなどによって、一層の効果が期待できます。

このような問題作りの学習に生徒が慣れていない段階では、やはり時間不足が予想されます。そこで、教師が例示した問題のタイプをグループや座席の列ごとに割り振るなどして、指定されたタイプに合うように作らせてみると効果的です。問題作りの学習は、オリジナリティよりも、まずは問題を作ってみることにより文章に取り組む姿勢を持たせることが大切ですので、ゲームの要素を取り入れるなどして、楽しく展開できる工夫をすることも効果的です。

問題を作ろうとする過程を通して、文章全体や部分の要旨を把握したり、文章の構成や展開を理解しようとしたりする力を身に付けていくことができます。

3 ノートや用紙に「要旨」を書かせましょう

文章の要旨をとらえる力を育てるうえで、ノートや用紙などに、「段落の要点をまとめる」、「文章全体またはある部分の要旨をまとめる(要約する)」といった指導をすることは、たいへん効果的です。これらの指導は、例えば、「この段落の内容を○字以内でまとめてみましょう。」「第○段落から第○段落までの範囲で、筆者が述べている内容を、○字以上○字以内でまとめてみましょう。」といった学習課題の提示によって行われるわけです。こうした指導は、説明文教材の指導では定番ともいえるオーソドックスな指導法です。しかし、字数を厳格に守らせようとしたり、すべての段落について単調に繰り返して取り組ませたりすると、マンネリズムに陥りやすく、生徒にとってはあまり意欲のわかない学習になりがち傾向もみられます。それを改善するには、「何のために要約をするのか」、「要約の力を身に付けると、どんな効果が得られるのか」など、学習の有用感を高める方向で、目的意識を育てる指導が必要です。また、「なるほど、こうすればいいのか」と、生徒が具体的に実

感できる方法を工夫することが大切です。

要約の学習の必要性を語りましょう

要約の力を付けることは、「読むこと」だけではなく、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の力を付けるうえでも、とても重要です。また、要約は国語科に固有の学習ではありません。要約に相当する学習が多くの教科にあります。ノートに大切なことをまとめること自体が要約であるといってもよいでしょう。学習内容をレポートにまとめる場合などは、一層、要約の力が求められます。一方、新聞やテレビなどの報道に目を向けてみると、まず要点を示したうえで、詳しい説明をするという手順がとられることが少なくありません。

そうした中から、分かりやすい実例を取り上げたり、教師自身の実体験を例にしたりするなどして、要約の必要性や重要性について、生徒にぜひ語ってください。有用感を持って学習することにより、一層の効果が期待できます。

導入で要約の例を示しましょう

要約の学習にあたっては、字数を指定したり、使用するキーワードを指定したりするなどの条件を示すことで、学習に適度な負荷をかけることが一般的です。しかし、条件の提示だけでは、要約の手順が具体的にイメージできない生徒もいます。そこで、学習の導入において、意見や主張のはっきりした文章とそれを要約した例をプリントにして配付するか、黒板に掲示するかなどして、要約の仕方を説明し、そのうえで課題に取り組ませると効果的です。一斉で行った後、必要に応じて個別に説明してもよいでしょう。教師自身が要約をしてみることで、生徒のつまずきを予想し、対策を立てるヒントを得ることにもつながります。

要約の例を比べさせましょう

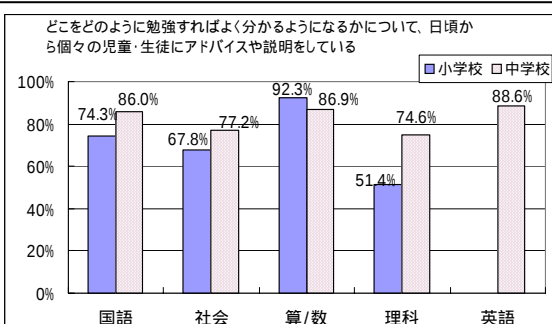
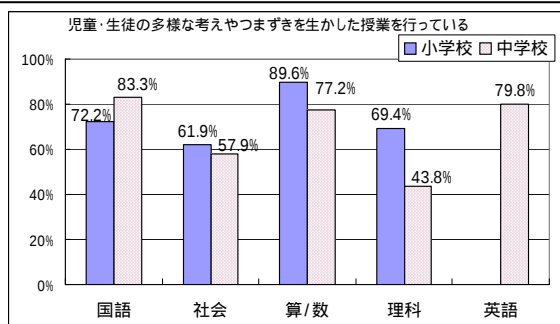
要約のコツを理解させるうえで、要約の例を二つ（以上）示して比べさせ、「どちらのほうが（どれが）どんな点で、よくできているといえるか」を考えさせることは、たいへん効果的です。要約の例は、もちろん、教師が作成します。その際、「どんな点で」を考えさせるために、「キーワード」、「中心文」、「繰り返して使用される語句」、「接続語」などの中から、そのときの学習の意図に応じて、生徒に着目させたいことを選び、用例ごとの出来具合に差をつけて作成します。比べて発見させることは、知的好奇心をかきたてます。

伝え合うことで活性化を図りましょう

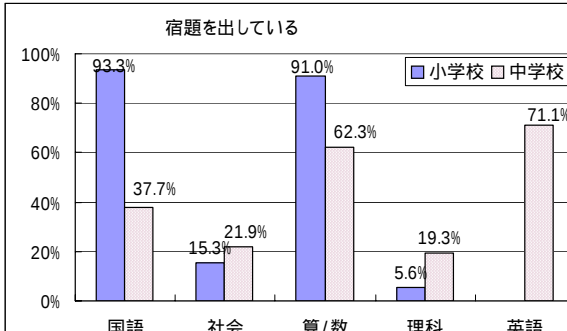
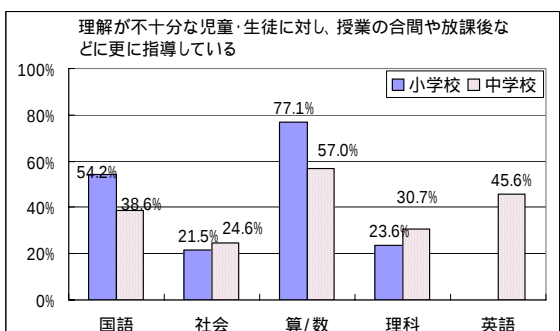
個人の学習として要約するだけではなく、ペア学習やグループ学習などにより、伝え合うことで学習方法をマスターするようにしたいものです。生徒どうしで伝え合うことにより、方法や内容が咀嚼できることも少なくありません。短い時間でも、伝え合う学習があることで授業が活性化します。ぜひ取り入れてください。

教師の指導の状況

○ 個に応じた指導



○ 基礎・基本や学習習慣を身に付けるための取組



平成16年度 栃木県 教育課程実施状況調査の概要

調査実施時期： 平成16年7月1日～7月19日の期間内

調査方法： ペーパーテスト調査、児童生徒及び教員に対する質問紙による意識調査

調査対象学年： 小学校第6学年、中学校第3学年

調査教科： ・小学校（第5学年段階の内容）：国語、社会科、算数、理科
・中学校（第2学年段階の内容）：国語、社会科、数学、理科、英語

調査問題： ・国立教育政策研究所が平成16年2月に実施した「小学校及び中学校教育課程実施状況調査」の複製

* ペーパーテスト調査については、各教科ともA、B、Cの3種類（ほぼ同程度の内容及び水準）の問題冊子を使用

調査学校及び児童生徒数： ・小学校：144校 約3900人

・中学校：114校 約3500人

調査結果等は栃木県総合教育センターのホームページ（<http://www.tochigi-c.ed.jp/>）でご覧いただけます。

栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

- 平成16年度教育課程実施状況調査の結果を踏まえて -

【中学校・国語科】

発 行 平成17年 5 月

栃木県総合教育センター 研究調査部

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303